

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	市原市立五所小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	21
児童数	56	72	49	69	56	71	0	373	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本を確かに身につけ、意欲的に学習に取り組む児童の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1年生～6年生・国語科
国語科は他の教科の学習を支える基礎的な教科であるため。
- ・1年生～6年生・算数科
学力分布の2分化、分散化の傾向が見られ、個に応じた指導が必要であるため。

(2) 年次ごとの計画

○ テーマ
基礎・基本を確かに身につけ、意欲的に学習に取り組む児童の育成

○ 研究の見通し
・学力観

【仮説1】【仮説2】
算数科少人数指導の取り組み

【仮説3】
朝ドリル等の取り組み

平成15年度
少人数指導による算数科「C基礎・基本」の学力の充実（主研究）について

【仮説1】
・少人数加配等を効果的に配置した指導体制を組めば、児童の実態に合ったきめ細やかな指導・支援を行うことができ、意欲的に算数学習に取り組むことができるであろう。

【仮説2】
・少人数指導により、学習内容の理解を深め、習熟させるための指導・支援を工夫すれば、「わかる・できる」喜びを味わうことができ、基礎・基本を確かに身につけることができるであろう。

朝ドリル等による「A学びの姿勢」、「B狭義の基礎・基本」の育成について
【仮説3】

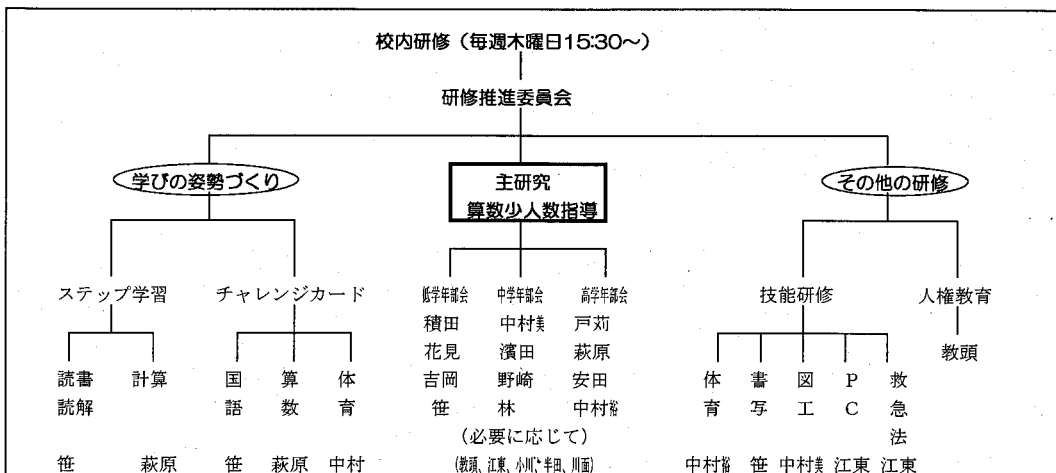
- ・日常的な朝ドリル等への取り組みとその評価により、読み書き計算の力を伸ばすとともに、学びの姿勢を育むことができ、基礎・基本の核となる学力が身につくであろう。

○ 研究の内容・方法

- ・個に応じた指導により、一人一人に基礎・基本の学力を身につける少人数指導の指導体制確立と指導・支援の工夫。
- ・読み書き計算の学力向上と学ぶ姿勢を育む朝ドリル「ステップ学習」を中心とした日常的な取り組み。
- ・児童の学力分析と学力評価を生かした指導。
(チャレンジカード、指導の学習個票、学期末テスト 等)

平成16年度	○ テーマ 基礎・基本を確かに身につけ、意欲的に学習に取り組む児童の育成
	○ 研究の見通し ・全校としての日常的な取り組みの拡充 平成15年度 朝ドリル「ステップ学習」 ↓ 平成16年度 朝ドリル「ステップ学習」 家庭学習 放課後等の補習 ※学びの姿勢づくり、読み書き計算の学力向上に加え、C評価をB評価に引き上げる指導体制の確立をめざす。
	・算数科少人数指導を一層充実させ、基礎・基本の学力の向上をめざした日常的、組織的、計画的な授業実践を行う。
	○ 研究の内容・方法 ・国語科においては、読書指導の推進、漢字書き取り率の向上、読解力の充実をめざした全校としての取り組みを行う。
	・算数科においては、単元の特性に合わせて習熟度別少人数指導を含む様々な学習形態の授業を日常的、計画的に行う。また、評価と照らし合わせ、朝ドリル、家庭学習、放課後の補習と補完するような指導体制を確立し、学力向上をめざした組織的な取り組みを実践する。

(3) 研究推進体制



・本校は、週1回の校内研修のなかで、上の図に示したような取り組みを行っている。主に本研究に関係するのは、「学びの姿勢づくり」と「算数科少人数指

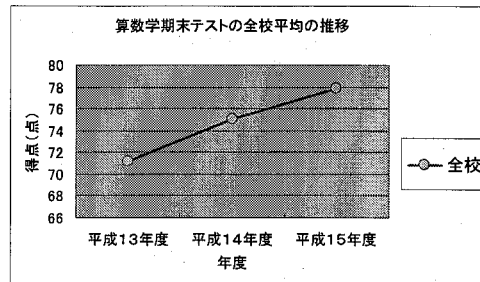
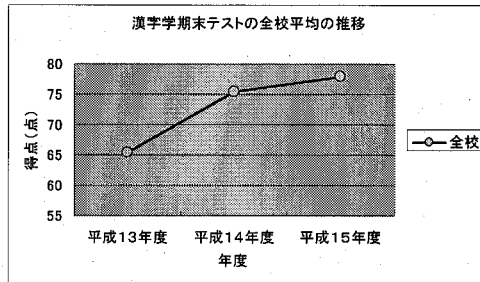
導」の2分野である。本年度は「算数科少人数指導」の研究を主研究とし、平成13年度から継続して取り組んでいる「学びの姿勢づくり」の研究を副的に取り組んでいる。

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

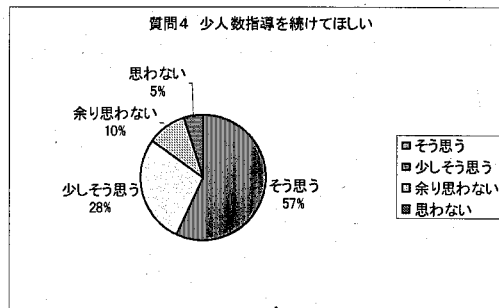
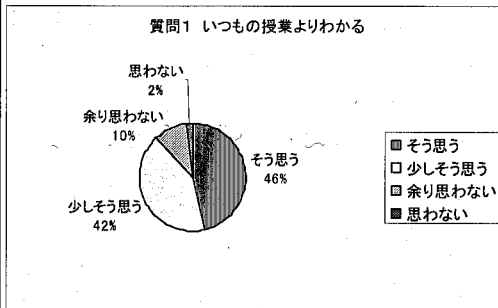
1. 研究成果

主な研究成果

- 学期末に評価された一部の学力の変化は、下のグラフのような結果となった。国語、算数を中心とした様々な取り組みの成果として、読み書き計算を中心とした学力に伸びが見られた。算数科においては、少人数指導により理解を深め、朝ドリルや家庭学習等により技能の習熟を図ることができたのではないかと考えている。



- 読書量についても、図書室の環境整備、教室への完読図書の配置、様々な形の読書記録、読み聞かせの会や読書集会の開催などの取り組みにより、児童の読書への関心が高まり、読書量の増加が見られた。
- 少人数指導は、下のグラフのように概ね好意的に受け止められ、心情的な面でも理解が深まっていることが裏付けられている。



- この他、
 - 毎朝、位置づけられている朝ドリル「ステップ学習」により、朝の学習習慣が身についてきた。
 - 教師の教材研究が深まり、児童一人一人を意識した教材を準備できた。などの成果も見られた。

2. 今後の課題

- 少人数指導の日常的に安定した配置ができなかった。年間を見通した指導体制と指導計画作りの改善が必要である。
- 少人数指導だけでは、「わかる」(理解)は達成できたが、「できる」(技能習熟)は不十分であった。ステップ学習、家庭学習、放課後の補習と組み合わせて、互いに補完しあうように指導していきたい。
- 数学的な考え方を伸ばす指導・支援の研究は不十分であった。系統立てた指導を行っていく必要がある。
- 評価Cを評価Bに引き上げるにはどうしたらよいか工夫を要する。

- ・読解力とは何か。どのような指導段階（ステップ）を踏んで指導すべきか。
- ・「学びの姿勢」の内容は何か。またそれは何によってどのように身に付くのか。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- ・学期末テストの実施（7月、12月、3月）・・・漢字、算数
- ・朝ドリルの取り組みの記録（ 〃 ）・・・読書量、読解プリント平均、算数ステップ学習の進捗など
- ・上記の結果を6年間継続して記録できる「チャレンジカード」に記入して、自己の学習成果を確かめ、自己効力感を高める資料とするとともに、教師の指導資料として活用している。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・校内授業研究で参観者受け入れ
9/29, 11/18, 11/25の3回実施
場所：五所小学校
近隣校、他市小学校、市内指導主事等のべ約25名程度参加。
- ・千葉地方出張所の新採用研究、5年目研究での実践発表。
7/4 県総合センター 5年目研 参加者4名
11/26 八千代市立萱田小学校 新採研、5年目研 参加者約30名
本校の実践研究の発表
- ・千数研での実践発表。
11/19 船橋市立宮本小学校 参加者34名
本校の実践研究の発表
- ・近隣校での実践発表。
12/2 市原市立清水谷小学校 参加者約20名
2/12 市原市立八幡小学校 参加者約20名
本校の実践研究の発表
- ・HP作成予定（3月更新予定）
- ・研究紀要配布予定（3月 市内小学校に配布予定） など

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無